は難しいだろう．この点，学会であればかなり自由に研究成果を国民に伝えることができる．

もちろん，周期的な変動と温暖化の影響を明確に区分することは困難で，研究者の間でも様々な考え方があるに違いない．学会としても，統一見解を出して発表するのは容易ではないだろう．統一見解である必要はなく，多様な見方があることを，そのまま国民に伝えることが大切である．多様な意見の中から国民は，どう考えるべきか，なにが大切かを学びとるはずである．

気象の話は身近な問題だけに，分かりやすいシンポジウムなどを開催すれば，多くの人が参加するだろう．地球環境問題に対する意識もさらに深くなるだろうし，自分のライフスタイルを考え直すきっかけにもなる．その結果として，気象研究や海の研究の重要性を国民が理解するようになると期待できる．気象学会の活動の中に市民をどう巻き込んでいくか，検討に値する課題だと考えている．

日本気象学会事務局新郵便番号のお知らせ

日本気象学会事務局

平成10年2月2日から導入される新郵便番号制の実施に伴い，学会事務局は下記番号となります．

事業所名	個別番号
日本気象学会	100-8122

訂　正

巻号	頁	項　目	誤	正
44.11	785 右上 キーワード	細密地理情報にもとづく都市気候数値シミュレーション地表面境界条件の高精度化	数値**シュ**ミレーション	数値シ**ミュ**レーション
	787	同　上　　右カラム　6行目	南　32	南**北**32
		7行目	大　　3層	大**気**23層
	798	右カラム　22～23行目	7．推薦者の**勤務先**	7．推薦者の**連絡先**